

退職によせて

「何故？」

歯科麻酔学分野 教授 瀬 尾 憲 司

本来、来年春に定年退職となるところ、本年5月末日をもって新潟大学の教授を早期に辞し、新潟を離れて新たな生活を始めました。現在、沖縄県内の病院で「いち歯科麻酔医」として働いております。多くの方からなぜ大学を辞めたのかという質問をいただきましたので、これに答えます。

定年退職という職務上満期を務め上げることは非常に大切なことです。しかし、今まで関与してきた学内または院内での各種の役割を永続することはできません。どこかで区切りをつけることが必要です。私は今までに日本歯科麻酔学会総会を主催でき、また教育用ビデオ「再現、歯科診療中の緊急事態とその対応」を作成し、さらに多くの国内外の研究者との交流ができた達成感がありました。残りの時間に何ができるかと考えると不安

でしたが、医局スタッフの臨床・研究技術の向上により次世代が活躍できると考えたことが、早期退職へ私の背中を押したのです。

では、なぜ沖縄か？これもよく聞かれることですが、因みに私の家系や今までの活動の経緯から、沖縄との直接の繋がりはありません。したがって、退職後の生活をする地の選択肢としては one of them でした。縁あって沖縄県内の歯科医療状況を知る機会があり、同地域での歯科医療の発展に麻酔の必要性がkeyとなっていることを知り、指導できる歯科麻酔医を望むスタッフの熱心な依頼に共感したことが最大の理由でしょうか。沖縄は旅行で2回来た程度であり、決して良く知っている地ではありません。では学会や出張などで数限りなく足を運んできた東京には詳しいかということ決してそうではありません。すなわち何度も訪れていることが移動を安心させる理由にはなりません。また1年のうち数か月は雨・雪の舞い散る新潟と、街路わきにバナナの木



1) 通勤路の脇に立つバナナの木

が並ぶ沖縄¹⁾の気候の違いは、温かい地域をよく知らない人間にとっては魅力的です。隣の県に移動しても、引っ越しは引っ越しですし、空路の利用でさほど遠くに感じないこと、さらに魅力的な多くの観光地に囲まれて暮らせることなどにより、退職後に生活する場としての候補地になったのです。

さて、沖縄県には3つの主たる県立病院から構成され、私が所属する病院は那覇市隣の「南部医療センター・こども医療センター」です²⁾。新潟大学医歯学総合病院と比べるとやや小規模ですが、小児の様々な外科的治療に特徴があるようです。話を歯科に向けると、沖縄県内ではこの3つの病院に加えて離島にも関連する県立病院があり

ます。それぞれに歯科口腔外科があり、結構な数の全身麻酔を必要とした症例数があります。特徴的なのはこれらの病院がスタッフの移動によって人的資源を有効に利用していることです。それでも麻酔医不足により十分な治療を供給できないというジレンマがあります。そのため現在私の麻酔業務は忙しくなってしまう、退職後は悠々自適で暮らそうとしていた当初の目論見は見事に外れてしまいました。

将来この地で歯科麻酔医を輩出可能な研修システムを構築し、そこから全身管理が可能な診療ができる歯科医師が育つように活動していきたいと考えており、それが私の新たな目標であると考えたのが、この退職を決断した理由です。



2) 病院全景